五代教主作　灰釉茶盌　銘「真澄姫」「金龍海五大州茶盌」
六盌のうちの一盌（金龍海大和島土・鉱泉１００％釉）

平成25年(2013)

阿づまの光

5月号・Majo

題字出口直日

通巻第５３０号
発行大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL（IP） 050-5510-9502
03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

苦労話や自慢話で家庭内宣教

総務管理課主事　藤本（ふじもと）　光（ひかる）

「父ちゃんはな、竹田で三代さまと農作業して、お茶を教えていただいたんや」と私は子どものころ、父から三代教主さまとの想い出話を繰り返し聞かされました。父は兵庫但馬の出身で、青年期がちょうど三代さま、尊師さまの「竹田時代」と重なり、よく三代さまのもとでご一緒させて頂いていたようです。

三代さまが竹田別院に渡られたのは昭和十八年、翌十九年暮れから聖師さま最晩年の耀盌制作が始められたころの話です。苦労もあったかと思いますが、とにかく三代さまのことを嬉々として話してた父の顔が懐かしいです。親にとっては自慢話ですが、子にとっては世界中の誰からも聞くことができない生きた話です。それは何年たっても決して忘れることのできない話で、大本の道を自然と継がせていただくきっかけのひとつとなりました。

『親の苦労話は子どもに聞かせるように』と三代さまはおっしゃられたと存じます。当時の三代さま、また多くの信徒の皆さまのご苦労は図りしれません。そんな中、三代さまは厳しい農作業の合間に、天国の遊びとして茶道や謡曲・お仕舞等を御自ら精進され、まわりの方々にすすめられました。そこから「脚下照顧」「言心行の一致」とかの新しい大本の教風が生まれ、宗教と生活と芸術の一致という信仰生活のあり方を示されました。

還暦という早過ぎる父の昇天からこの六月で三十年祭を迎えます。そうした父の言葉は苦労話より自慢話が多かったですが、もっと聞いておきたかったものです。

今、各地で開催の大本のお作品展等は、一般の方々に対して広く外へ向けての大事な宣教です。また各家の大本信仰の足元を固める後継者育成はいつの時代でも大事です。教主さまにご面会しお言葉を賜ったこと、いろんな形での大本のご奉仕活動等、大本で体験した、感じたありのままを親から子へ伝えることが家庭内宣教の一つだと思います。

今月の聖言

貧（まづ）しきが中（なか）にはぐくみ育（そだ）てたる
子（こ）は宝石（ほうせき）にまさりて貴（たふと）し

出口王仁三郎聖師

東光苑春季祭式講習会

東光苑春季祭式講習会は、三月二十三・二十四の両日に開催され、のべ四十五人が受講した。

受講者は、初級クラスが基本動作から後取動作・正中動作・祓式行事・月次祭まで、中級クラスが大神鎮座祭・祖霊鎮祭・合祀祭・年祭まで、特別クラスが葬祭の斎主養成のための、装束着付けとしまい方や誄詞作文などをそれぞれ実習した。

なお、初級と中級クラスの内、十二人が大本祭式認定試験に臨み、二日間の実習の成果を試した。

祓式行事の実習に取り組む受講者

東光苑観桜茶会

東光苑観桜茶会は、四月七日午前十時三十分から午後三時まで、東京宣教センター一階の東光庵で催され、六十人が入席した。

日常の喧噪を離れて静かなひとときを過ごす入席者

お茶席は、埼玉主会の高野則子氏指導のもと、埼玉・東京・神奈川主会のみなさんが接茶係をご奉仕。

立礼席には、近隣信徒から届けられた八重桜が活けられ、茶室に花を添えた。

当日はあいにく強風が吹きつける天候ではあったものの、鎌倉作品展を観覧された一般の方や着物に身を包んだ海外の方なども入席され、一服の薄茶に癒しのひとときを過ごした。

なお一階の応接室では、歴代教主・教主補さまのお作品展示が行われた。

東光苑春季大祭

東光苑春季大祭は四月十四日、午前十時三十分から、教主さまご臨席、斎主・出口眞人氏のもと執行され、四百三十人が参拝した。

祭員は各主会祭務部長ら信徒、伶人は宮咲会関東支部、少年少女祭員は山梨主会の小池翔音くん・礼音さん兄妹、神奈川主会の星田夏音さん、佐保さん姉妹、大本神諭拝読は朝倉泰群馬主会長、添釜は村井社中が担当した。

祭典後、教主さまがごあいさつ（二～三頁掲載）にお立ちになり、次いで東京本部を代表して浅田秋彦東京宣教センター長と斎主の出口眞人氏がそれぞれあいさつを述べた。

教主さまのご先達にあわせて「感謝祈願詞」を奏上

続いて奉納行事が行われ、宮咲会関東支部のみなさんが八雲琴「宮の咲」、福島主会と栃木主会のみなさんが群読「雨ニモマケズ」と唱歌「花は咲く」、東京本部直属信徒で日本を代表する和太鼓奏者でもある林田ひろゆき氏が和太鼓「奉納太鼓」をそれぞれ奉納した。

続く直会では、教主さまから小学生以下の少年部員と幼児にお菓子が手渡された。

教主さまは一人ひとりの挨拶をお受けになり、親しく声を掛けられた

その後、参拝者は教主室で各主会ごと七組に分かれて教主さまにご面会を賜った。

出口なお・出口王仁三郎の世界を語る

第百二十二回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る２０１３』は、四月十七日午後七時から八時三十分まで、港区新橋の航空会館において、加藤眞三慶應義塾大学看護医療学部教授を講師に「ネットワーク時代を生きる患者学」と題して開催された。参加者は二十三人（内、一般十五人）。

講座では、研修のため訪れたベトナム・ラオスの貧しくも心豊かに暮らす農民と、高度な文明と生活習慣の日本人を比較しながら、日本の病院や医療現場が抱える問題や課題を解説したほか、現在実施されている肝臓病教室やインターネットを通しての情報発信活動を紹介。さらに医師や看護師といった医療者だけでなく患者を含めた情報の共有と、終末期を迎えた患者のためのスピリチュアルケアなどについて説かれた。

「これからの医療は、医療者だけでなく、患者も主役になってネットワークを使って自分らしく生きるための情報を収集し普及することが大切である。それにより患者自身が包括的な物語を持つことができ、色々な状況に対応できるようになる」と結んだ。

東光苑祭典・行事予定

5月

4日（土）午前10時30分執行
教主生誕祭・三代教主（111年）教主補（116年）聖誕祭

5日（日）午前10時30分執行
みろく大祭遥拝祭

12日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

15日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題 出口王仁三郎の預言
～みろくの世の姿～
講師 森 良秀（東京宣教センター次長）
会場 航空会館（港区新橋1―18―1）

6月

9日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・世界平和祈願祭
市杵島姫命例祭

19日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題 日本及び日本人の使命
～日本は世界の要～
講師 浅田秋彦（東京宣教センター長）